

「上場小学校の鎌 hands 踊り伝承活動の取組」

1 学校名

湧水町立上場小学校

2 学年・人数

3年生以上の児童9人，教員3人（計12名）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年9月～11月 上場地区農業構造改善センター及び
上場小学校運動場・体育館

令和5年11月17日（金）町文化祭りハーサル（湧水町吉松体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和5年10月1日（日）上場小・校区合同学校運動会

令和5年11月19日（日）湧水町文化祭・舞台芸能祭

4 伝承・活用に取り組んでいる伝統芸能について

(1) 名称

鎌 hands 踊り（かまんでおどり）

(2) 由来

鎌 hands 踊りは，その昔豊臣秀吉の朝鮮出兵に従軍した島津氏の凱旋祝いに踊ったのが始まりといわれているが，起源の詳細は不明である。二尺の鎌と五尺の鉈を打ち合いながら踊り，普通の農作業の中でも絶えず武芸に励むようにと伝承されてきたものである。農作物の収穫と豊作を祝うときに踊られており，昔は，農家に一番大切な牛や馬を祀っていた「馬頭観音」で，毎年4月8日に踊られていた。

(3) 構成等

踊りは，四人が一つのまとまりとして編成され，鉈が足元を払うときは鎌が飛び上がり，鉈が上を切るとき鎌は下へ曲がるというように，相手の攻撃をかわしながら身を守り，攻撃するという構成になっている。本番では，法被にたすきがけ・はちまき姿に鼻筋にメイクを施して踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

平成13年度から「子供たちに地元の伝統芸能を継承していこう」と，地域の「上場地区芸能保存会」の全面的な支援の下，水窪地区の「建築踊り」，佃地区の「鎌 hands 踊り」（別府地区の「棒踊り」は現在指導者がおらず実施せず）を隔年で児童が教わり，校区合同運動会で発表している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら伝統芸能を継承していくために，発表の場を校区合同運動会に位置付けている。また，町の文化祭や農林商工祭への出演依頼があれば，披露している。今後も継続して地域と連携しながら校区の伝統芸能を伝承していけるように体制を整えたい。

7 取組の様子



「鎌 hands 踊り」練習の様子



上場小・校区合同校運動会



文化祭りハーサル



湧水町文化祭

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【6年生児童】

運動会や文化祭で多くの人たちの前で発表できてよかった。伝統がなくなるのは寂しいので、僕たちが受け継いでいきたい。

【教職員】

新型コロナウイルス感染防止から運動会を単独で、午前開催にしていたため伝統芸能披露をやむなく中止していたが、児童や地域の「伝統を引継ぎ、保存したい。」という強い思いから令和4年度から復活させることができた。また、保護者の理解や協力のおかげで、町の文化祭にも出演することができた。本取組を通して、児童に生まれ育っている地域への誇りや愛着をもたせることができた。

【地域の方から】

地域の芸能として定着するも人口減少により後継者不足で、児童が引継いでくれ、有り難いと思っている。今回初めて踊る児童も堂々たる姿で踊っており、感動した。今後も伝統芸能を引継いでもらい、元気な上場っ子の姿を見たい。

【保存会から】

小学校の児童一人一人が曲に合わせた所作を覚え、一生懸命元気よく踊り、継承ができたと思う。高齢化が進み、郷土芸能の指導者が減少してきているが、地域・学校・PTAと連携し、今後も継承活動に取り組んでいきたい。